

「若手研究者支援」国際学会発表	
The Transmission of <i>jintishi</i> in Japan: Focusing on <i>Ouyang Shixue</i> (日本における禁体詩の伝来—「欧陽詩雪」を中心に—)	
氏名 ZHENG RUIXUE	所属 比較社会文化学専攻 博士後期課程 1 年
期間	2025 年 6 月 27 日～2025 年 6 月 29 日
学会・分科会名	日韓次世代学術フォーラム第 22 回国際学術大会、C 言語・文学
場所	韓国国立釜慶大・大淵キャンパス（釜山市南区）
発表者名、発表形式	ZHENG RUIXUE、口頭発表

内容報告

1. 本学会発表の目的・意義

禁体詩は、中国北宋で成立した、物を題材とする「詠物詩」の一種である。詩における表現と規範の関係を根本から問い直す点で、中国文学史において特に注目される形式である。たとえば雪などの自然物を題材としながら、「雪」という語やそれに直結するありふれた表現を意図的に避けるという特徴が見られる。

禁体詩は日本にも伝来しており、日本の漢詩人たちは中国詩の規範と向き合いながら、模倣と創造の間で独自の詩的实践を展開してきた。本研究はその伝来と変容を考察するものであり、特に『皇元風雅』に収録されている「十雪題詠」の第十首「欧陽詩雪」に着目し、その逸話性と技巧性を分析した。室町時代の五山禅林から江戸初期にかけての流布と変容を中心に検討し、日本漢文学史における禁体詩受容の初期段階を明らかにした。

2. 日韓次世代学術フォーラムについて

本学会は 20 年以上の歴史を持ち、日本と韓国の大学院生に学術交流の場を提供してきた。近年では、日本・韓国に加え、中国やベトナムなど他国から両国の大学院に在籍する院生も参加可能となり、国際的な交流の幅が広がっている。発表者が参加した「C 言語・文学」セッションでは、東アジアの文字や文学を中心とした多様な研究が発表され、活発な議論が行われた。

3. 発表で得られた成果と今後の展望

本研究発表を通じて、日本漢詩における中世から近世詩への転換期に、前時代の影響のみならず、同時代の中国詩壇からの直接的な影響が作用していた可能性について、専門家から貴重な指摘を受けた。これにより、今後はより広い視野で東アジア文学の相互関係を検討する必要性が認識された。

今回の発表内容は、発表者が取り組む博士論文の第一章「日本における禁体詩の伝来」の一部として位置づけられる予定である。今後は、より具体的な日本の漢詩人とその作品に焦点を当て、さらなる資料収集と詩の解説を進める計画である。また、本研究成果は投稿論文としてまとめる予定であり、日本近世文学会への投稿を検討している。

加えて、本学会発表は国際的な場での発表経験を通じ、研究活動に加えて異文化間での学術交流能力を培う貴重な機会となった。これにより、発表者が今後国際的に活躍する女性研究者・リーダーとして成長していくための重要な一歩となった。

参考文献

- 中本大（2004）「『十雪詩』のゆくえ」『論究日本学』100, 53-63.
堀川貴司（2005）「中世から近世へ」『中世文学』50(0), 22-27.

てい ずいせつ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

- ・ 英文タイトル The Transmission of *jintishi* in Japan: Focusing on *Ouyang Shixue*
- ・ 英文氏名 Zheng Ruixue